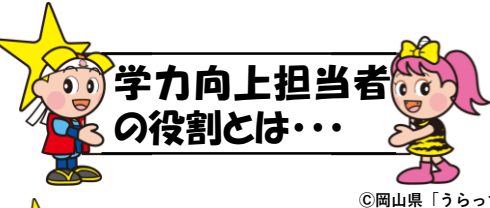


全児童生徒の「できた」「わかった」の実現に向け 全職員が一丸となって取組を推進しましょう。



©岡山県「ももっち」

本県の学力状況は、先生方と児童生徒の校内における取組や保護者や地域を巻き込んだ取組等により、改善の兆しが見え始めています。今号では、更なる高みを目指すために、学力向上担当者の役割を紹介します。



学力向上担当者の役割とは…

©岡山県「うらっち」

- 学校組織全体で次の取組が推進するよう働きかけることです。
- 児童生徒が資質・能力を確実に身に付ける**授業改善**
 - 誰一人取り残さないための**つまずき解消**

授業改善の旗手となりましょう

- 授業改善に向けた対話のある校内風土の醸成
- 教師が「教え込む」授業から児童生徒が「主体的に学ぶ」授業への転換
 - ・児童生徒が主役となる授業づくり
 - ・単元を見通した授業計画の作成
- C (Cycle) と F (Feedback) の実践

学ぶ意欲の向上
学力の定着

「学ぶ力」

多様な方法や場面で実態を把握し、つまずきは早期に解消しましょう

授業での見取り及び単元テスト、定期考査、各種調査等を活用した定量的な分析により、児童生徒の実態を把握し、児童生徒が困っている際は、早期のつまずき解消を目指し手立てを打ちましょう。定量的な分析では、実施した取組について、有効性を検証し必要があれば改善策を提案し、教務主任等と相談しながら、具体的取組として教育課程に反映させましょう。

本県の授業改善・学力向上に関する、1年間の見通し（令和3年4月現在）



「把握 (Research) = R、計画 (Plan) = P、実施 (Do) = D、評価 (Check) = C、改善 (Action) = A」サイクルの実施により、活動の質を高めることにつながります。

もう一押し!



発達段階や学校の状況に応じて、児童生徒と「何のために」「何を」「どれぐらいの頻度で」「どこまで」「どのように」学ぶかを共有することで、児童生徒の学ぶ意欲や取組の質、効果を高めることが期待できます。